

大東ぶるさとカルタに見る地域遺産③ 『平安の記録にのこる須波麻さん』

うかがわれます。明治6(1873)年には讃良郡の11ヶ村の郷社となりましたが、現在では中垣内地区の産土神として祀られています。

境内入口には伊勢参りの記念に建立された文政13(1830)

年のおかげ灯籠が残されていま

す。この灯籠は、当初は神社の西側を縦断する東高野街道沿いに建てられていたため、道標を兼ねた珍しい形をしていま

(生涯学習課)

江戸時代、日本の総人口の約8割が農業従事者でした。江戸幕府や諸藩の財政は、このよ

うに毎年の農業生産物を対象とした税以外にも、それぞれ時代の流れのなかで必要に応じていろいろなものに課せられました。

江戸時代の諸福

このように江戸時代には、農業生産物に課せられる税以外に多くの負担がありました。

これら古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させた古文書

(享保12年(1727)8月)

須波麻神社は中垣内2丁目に所在し、大國主命が祀られています。伝承ではこの神社の祭祀は出雲大社と同じで、古くは10月7日に大祭を行っていたといわれています。現在の社殿は明治36(1903)年に建立されたもので、拝殿の奥の本殿は春日造りの様式となっています。

平安時代の延長5(927)年に成立した「延喜式」の「神名帳」に記載されている本市唯一の式内社で、記録で確認できる神社としては市域で最も古い神社です。

当時は讃良郡6座のうちの1座とされていますが、古くは讃良郡から若江郡に至るまで、多くの村の氏子を有する神社であつたといわれています。また、享保19(1734)年の「河内志」、享和元(1801)年の「河内名所図会」などの地域を紹介している本にも記されており、戸戸時代においても名所として知られていたことが

うかがわれます。明治6(1873)年には讃良郡の11ヶ村の郷社となりましたが、現在では中垣内地区の産土神として祀られています。

境内入口には伊勢参りの記念に建立された文政13(1830)年のおかげ灯籠が残されていま

す。この灯籠は、当初は神社の西側を縦断する東高野街道沿いに建てられていたため、道標を兼ねた珍しい形をしていま

(生涯学習課)

江戸時代、日本の総人口の約8割が農業従事者でした。江戸幕府や諸藩の財政は、このよ

うに毎年の農業生産物を対象とした税以外にも、それぞれ時代の流れのなかで必要に応じていろいろものに課せられました。

江戸時代の諸福

このように江戸時代には、農業生産物に課せられる税以外に多くの負担がありました。

これら古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させた古文書

(享保12年(1727)8月)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入されており、嘉永7年(1854)には、前年のペリー来航による海上防衛の必要性から、江戸湾(東京湾)に砲台の「御台場」建設の費用が上納されています。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の経費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使」の絏費が納入

されており、嘉永7年(1854)

には、前年のペリー来航に

よる海上防衛の必要性から、江

戸湾(東京湾)に砲台の「御台

場」建設の費用が上納されてい

ます。

これらの古文書については、8月末日まで、市立歴史民俗資料館で展示されています。

(市史編纂委員 岡村喜史)

農民に京都二条まで年貢米を送ることを負担させられています。

また明和元年(1764)には、将

軍代替りを祝賀す

る「朝鮮通信使